

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年8月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年8月1日発行 通巻244号(毎月1回発行)

山の天気を予測して

危険を回避しよう

8月号 目次

目次	2
富士山の世界文化遺産に想う	3
花博士の花便り	5
全国組織強化交流集会報告・鶴田 副理事長	6
松戸・柏地区・第1回・会交流山行報告	8
松戸山の会 山行報告	10
救急法講習会報告	12
ハイキングA・B・C テキスト紹介	13
山筋ゴーゴー体操 テキスト紹介	14
クリーンハイク報告(こまくさHC)	15
「ゆう」たより	16
7月支援活動報告	18
「ゆう」支援バスツアー 案内	19
支援物資の紹介	20
県連便り	21
8・9月予定表	22

表紙説明

松戸山の会の女性陣は、元気◎だ。山行はもちろん、会行事、支援活動にと女性陣の活躍には頭が下がりっぱなしです。

会行事の延長で、県連の委員会活動にも、そのパワーを注入していただきたい。



富士山の世界文化遺産登録に想う

ふわくハイキングサークル 代表 うざわ 喜久雄
(千葉県連盟 元自然保護委員長)

特別の喜び——7月22日にカンボジアの首都プノンペンで開かれた、ユネスコの第37回世界遺産委員会で、日本の「富士山」が文化遺産に登録されました。日本にとっては17番目の遺産指定です。

これまでには数々の屈折があり、この登録に関わった者としては、特別に喜びたいと思います。

富士山エコフォーラムが大きな力に——経過をふりかえって見れば、その大きな力になったものが、2002年の「国際山岳年」(国連が提唱し国際山岳連盟 UIAAがよびかけたもの)に開かれた富士山エコフォーラムの成功です。このフォーラムは山岳五団体(日本勤労者山岳連盟・日本山岳会・日本山岳協会・日本ヒマラヤ協会・日本山岳ガイド連盟)が企画し環境庁などとの共催で行ったものです。

2002年7月6日から7日に、静岡県富士宮市での催しは環境大臣と静岡県知事・山梨県知事を来賓にむかえて、田部井淳子さんが「山と人との21世紀のつきあい方」のテーマで記念講演が行われました。全国労山とともに千葉県連盟も実行団体としてバスで参加しました。これに前後して山腹に散乱するゴミを清掃し登山道に建つ石室のトイレ事情も調査する活動を展開しました。

この集会での「富士山を誇れる山として保全し、その恵みを後世に継承しよう」の決議は世界遺産登録の大きな一歩となりました。

文化遺産の意義——今回の正式登録は「富士山——信仰の対象と芸術の源泉」でここに特別の価値があります。私は富士山が・名山としての景観・だけを誇るものでないという事に特別の価値があると思います。

富士山自体が名山であり観光地としての価値もあります。それに付け加えて、古代から煙をはく山として信仰の対象となって来た山です。●富士講●が組織され浅間神社が各地に構築されて来た山です。

それだけにこの山と周辺地域は芸術の対象となり、浮世絵や油絵のモデルとなり世界の美術界に影響を与えました。一方で謡曲の舞台や説話の題材ともなって来て●芸術の源泉●としての文化的価値が審議され、結果的に三保の松原も加えられ認められた事は大きいと思います。

山愛好者としての課題——今回の決定について●よりよい保全状況を確保するため●に、地域コミュニティと政府機関が密接に協力する事が協調されました。

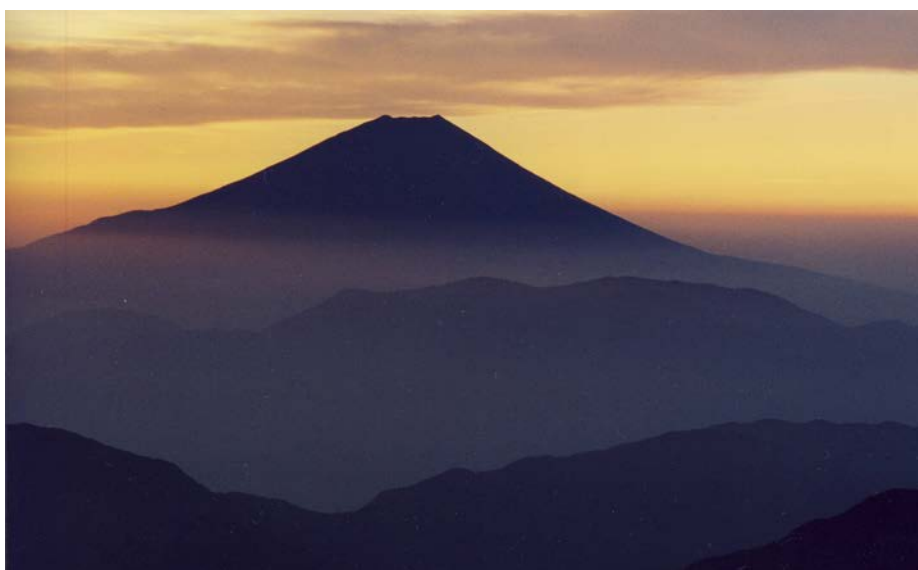
この具体化には、

- ◎ これ以上の山岳道路を造らないこと。
- ◎ ゴルフ場やレジャーランドの増設はやめる。
- ◎ ゴミの不法投棄防止と山岳施設のトイレ改善。
- ◎ 登山者が届け出制守る。

などの、ルールある規制などをすすめる事だと考えます。

更に静岡県側にある「東富士演習場の撤去、開放を求める事が遺産登録に際する課題だと思っています。(千葉県の場合は、県内最高峰の嶺岡愛宕山にあるレーダー基地の撤去)山愛好者としては、房総の山に再々入り、ふるさとの山がもっと好きになること、山と文化芸術とのかかわりの広い視野になる山歩きを企画すること、県連のクリーンハイクに多数参加して房総の自然観察と自然保護活動を広げることなどを展開できれば、富士山の文化遺産登録が私達にとっても大きな意義になるだろう。

以上



(富士山の写真は、成田ラテルネ山の会 市場 正敏氏 提供)

花博士の花便り

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

“笠ヶ岳は雨で断念綺麗な花旅に”

笠ヶ岳の登山計画で7月12日都庁前のターミナルから夜行バスで、3日間の予定で新穂高温泉に向かった、途中では晴天で最高の登山が出来ると思っていた。

処が出発地の新穂高温泉は雨だった、予約の温泉ホテルに荷物を預けて歩き始めた左俣林道は、笠ヶ岳新道の入口までの小雨の中で沢山の花が咲いていた。ヤマホタルブクロ、サワギク、ヤマオダマキから始まりヤマアジサイの花は、白、紫、赤色などの変種が多く咲いていた。近くに咲くノリウツギ（糊空木）キリシタ科アジサイ属の白い花は、昔は和紙の糊に使われたことから銘々されたと言う。リョウブ、ヨツバヒヨドリ、ベニバナイチヤクソウ、ササユリ、コイワカガミ、ゴゼンタツバナ、ヤグルマソウ、トリアシショウマ、オニシモツケなどが林道の側面で見られて足が止まる。



その中で、オオヤマレンゲ、(モクレン科、モクレン属)は、純白で真ん中の赤い色は、最高に私の好きな花です。

笠ヶ岳新道入口で雨が強くなり、厳しい選択と成った。

笠ヶ岳を断念しワサビ平小屋に向かう、ブナの大木にイワガラミやルアジサイの花が見えた、小屋近くで、

真っ白なツルアジアイの装飾花だけの花が咲いていました。

10年前に黒部五郎岳まで、始めて縦走した時の心に残っていた花だった、通常のアジサイは、ガクアジサイと同じ咲き方だがこの1本だけ何処でも見たことの無い花だと思ふ。小池新道から鏡平に向かったが途中で引き返しワサビ平小屋に宿泊した。次の日も、天候が悪くコース変更して西穂高方面に向かったがここもダメでした。全員でリベンジを誓い1日早く帰って来ましたが、私は、素晴らしい花に出会へて満足な花旅に成りました。



ノリウツギ



ツルアジサイ

労山会員拡大・組織強化交流集会 出席報告

千葉県連盟 副理事長 鶴田 秀雄
(ちば山の会)

I.日時、場所 2013年6月29日～30日 全国連盟事務所

II.出席者

地方連盟代表：25 地方連盟 33 名（組織部長、事務局長、理事長など）
全国連盟役員 20 名（副会長、全国理事）

III.議事

「1 日目」

1.齊藤理事長あいさつ

組織会員数 横ばい 個人会員数 現在 102 人

2.川嶋事務局長

アンケート回答 49 連盟中 36 連盟より回答があった。

3.大澤組織部長 基調説明

(1)アンケート回答から見えること

- ・市民登山教室、充実した HP とそのメンテなど外部に向けた積極的な情報発信で会員数を増やしているところがある。
- ・一方現状維持で精いっぱい、現状でいいという会も少なくない。
- ・組織運営の点では 役員のなり手がいない 労山のメンバーで労山の活動をしているという意識が 会員から役員全般にわたって希薄になっているという声が多い。

(2)上記を踏まえての提案

- ①IT 講座など HP の開設をどうやって広げていくか、手法について今後研究を深めていく
- ②市民登山教室など未実施のところは、近隣地域の会、倶楽部と共同で実施するなど努力を進める。

4.各県連報告（五つの地方連盟から会員拡大の報告）

- ①沖縄 24 名で発足したのが直近 100 名を超えた。
興味の対象によってグループにわかれ（花いかだ、やんばる探検隊）
地道な活動の成果
- ②岡山 県連パンフレットの作成、HP の更新内容の一新、組織委員会の新設などの改革
一般を対象にした講座で特筆すべきもの
山陽カルチャーマウンテンクラブは登山教室を 16 年にわたり継続
トータル受講生 900 人
倉敷ハイキングスクール
- ③兵庫 4 本柱（公開教室、公開山行、HP 開設、ロコミ）を実行しているところ

は会員が増えている。県連盟に若者委員会があり本年4月にヤングメンバーズミーティングを開催

⑤北海道中央

- ・ バビシェ・マウンテンクラブ
札幌近郷の山を紹介する出版に協力したのが会員拡大につながった。
- ・ 札幌中央勤労者山岳会、HPの充実とチラシ配りに力を入れている。

5. 質疑応答

- ・ 大人数の会における連盟費用の問題 他
会員数が三桁の大型会の連盟費は、数十万円になります。この問題に対し割引などの特別措置を考慮してほしい。と言った内容についての質問があった。
- ・ 全国連盟のHPが、使いづらい、良くわからないなどの意見が多かった。

「二日目」分科会

参加者が二つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで討論を行った

◆ 第1分科会「魅力あるホームページと会員拡大」(19人)

- ・ 組織強化、会員拡大には、HPの果たす役割が重要であることが確認されている。
- ・ HPを見て、会の例会見学に来る人が増えている。
- ・ 見学者を入会につなげる、新人の対応専任者を置いている。
- ・ HPの内容、情報更新が重要である事も報告があった。

◎ 札幌中央勤労者山岳会は、HPに会獲得専用欄がある。

最新の山行報告を掲載するために、山行メンバーにHP投稿担当者を決め、山行終了後速やかに直接投稿する。

◆ 第2分科会「登山教室など登山者教育と会員拡大」(25人)

- ・ 「労山の理念」「労山の活力」について質問が出された。
- ・ 登山教室などで、冒頭に「労山理念趣意書」の説明などを設けている。
- ・ 登山教室などの告知方法や、新聞社、公民館、FM局の協力・利用が重要である。

◆ まとめ

今参加者からは、今回の組織交流集会は、地方連盟・各会の現状や組織問題について意見交換が出来た。有意義な交流集会であった、今回学んだ事を地方連盟・会の活動に役立てたいとの決意表明的な発言があった。

以上

会員拡大・組織強化交流集会の開催について

今回の交流集会の開催は、2012年2月・第30期全国総会、2013年2月・第30期臨時総会において、個人会員制度導入が決議され、労山内に2つの組織が確立した。

同時に「個人会員制度」導入と一対で、現組織の「組織強化の方針」が決議された。会員減少に歯止めをかけ、組織衰退をくい止める活動の実施に向けて、全国の会・クラブの先進活動に学ぶ重要性を確認した。これらを受けて、全国連盟は数年間開催されていなかった、組織強化・会員拡大に関する集会を実施した、

全国連盟 副理事長 広木 国昭

第一回交流山行（日光・高山）

参加会・メンバー

松戸山の会 : 大越直樹 C L 渡辺敦子 S L
まつど山翠会 : 小林康男 南礼子
シリウス山の会 : 佐藤安行 大木孝子 小追敬恵 能登由美子

コースタイム

2013年6月27日

滝上バス停 9 : 30/9 : 40 - 高山山頂 11 : 0/11 : 20 - 分岐 11 : 45 -
熊窪 12 : 25/12 : 30 - 千手ヶ浜（クリン草群生地） 12 : 50/13 : 30 -
熊窪 13 : 50 - 赤岩 14 : 20 - 龍頭の滝バス停 14 : 50

費用 まるごと日光東部フリーパス 4,300円

新松戸—北千住 290 x 2 = 580円 合計 4,880円



高山山頂にて

（松戸山の会 大越直樹 記）

3月に行なわれた代表者会議後の懇親会の席上、近くの山岳会で親睦を深めるため「交流山行をしませんか」と盛り上がりました。

酒席の話だったので 後日確認のため、松戸市民会館で前述の3つの会とかがりび山の会を合わせて4つの会で打ち合わせを行いました。

その結果が今日の山行に至った経緯です。

山行当日は、曇時々雨の予報でしたが、心配をよそに嘘のように晴れ渡り、楽しい山行を楽しめました。そして、とても他会の人々だとは、感じさせないような和気藹々とした雰囲気でした。山好き同士と言う共通項で、親しくなるのに時間が必要なかったのでしょうか。高山山頂で撮った集合写真の幸せそうな顔顔がそれを如実に物語っている、と思います。

至福の時間を共有したこともあり、今回の山行を契機に、年2回各会持ち回りで交流山行を継続していこう、ということになった次第です。帰りの電車の中での反省会（？）、北千住下車後の懇親会、別れを惜しんで飲み続けたのでした。次回からは、交流山行の参加を会員全員に呼びかけ、各会との重層的な人間関係を織りなして行きたい、と願っております。

(まつど山翠会 南礼子 記)

天候が心配される中、青空に恵まれ歩程もよく、道もよく、そしてクリンソウも満開でとても楽しい山行となりました。

中禅寺湖では波の音を聞きながら・・・、なんだか現実離れした不思議な時間がもてました。

帰りの電車の中からすでに始まった反省会ではこれからの山岳会の明るい未来がうかがわれ、私も多いに感化されました。

山を歩いてなければ出会うことのない人達と沢山の幸せを共有でき本当に楽しく充実した一日でした。

いろいろとお世話になり有難うございました。2回目を心待ちしております。



中禅寺湖と男体山



クリンソウ

(シリウス山の会 佐藤安行 記)

“交流山行をやりましょう”

代表者会議後の懇親会席上だった。

得てして流れやすい話題だったが、後日松戸山の会が主となり具体的な打ち合わせ会が催され、四つの会が集まった。

この計画が話だけで終わらないためにも「あまり先の事は考えず結果は後、とりあえずやってみる事が先決ではないでしょうか」。

私は日光の山が好きでよく歩く、6月の高山は手軽であり新緑、ツツジ、定期的にクリンソウが観られるはず、と提案した。

山行予定の13日は雨、予備日の27日に実行、新緑は眩しくクリンソウは見事でした。

山を歩く事が目的の会員同志、直ぐに打ち解け和気あいあいとなった。帰りの電車、酒とつまみを買い合って今後の事を話し合った。さらに北千住で下車し居酒屋で反省会(?)をやりそれでも反省(笑)が足りず上本郷(新京成)で杯を重ね、楽しい一日はあっという間に終わった。

松戸山の会・山行報告

至仏山・上州武尊山

山行日 2013年7月13日(土)～14日(日)

参加者 CL大越, SL大熊、加等、吉田、鈴木(知)、佐藤(映)、福沢、小林、長谷、橋詰(記)
コースタイム

7月13日 曇り一時雨

松戸6:15=戸倉11:40 バス11:50=鳩待峠12:20/12:30—R12:55/13:00—水場13:50/14:00—2162m点14:35/14:55—水場15:05/15:10—鳩待峠16:05 バス16:30=戸倉17:00/17:10=武尊牧場キャンプ場泊

7月14日 曇り一時雨

武尊牧場キャンプ場6:50—眠る男ロケ地7:20/7:30—R8:20/8:30—武尊非難小屋9:20/9:30—岩場10:10—中ノ岳分岐11:00/11:10—武尊山山頂11:40/12:00—岩場13:45—武尊非難小屋14:35/14:50—R15:25/15:30—武尊牧場キャンプ場16:05/16:30=温泉入浴=食事=松戸着22:45

今度の山行に参加した経緯は4月に奥多摩、雲取山に登ったメンバーからまた一緒に登りましょうという声かけと両山共登りたい山の候補に挙げていたことからです。私自身、6、7年前に初めて尾瀬が原を訪れ周囲の山の美しさに魅かれるところがあり山登りのきっかけとなりました。燧ヶ岳、会津駒と立て続けに踏破したのですが、至仏が残されていました。

朝、松戸を定刻にスタート、3連休のためか高速道路は延々と渋滞が続いており現地到着の遅れが予測され場合によっては山頂をあきらめ行けるところまで引き返そうという予定でした。それでも計画より30分遅れ、何とかなるのではと期する思いもありました。いざ出発の前に皆さんが取り出した夏の鉄則、虫よけを忘れたことに気づき、アカン・・・と思いきやY氏からハッカチンキ？をお借りし何とかセーフ、これがまた強烈な匂いで実によく効きました。(しかしながら今次の山行で不幸にも2回も虫に刺されひとりブヨに好かれてしまったO氏は本当、大変お気の毒様です。皆を代表して犠牲になったとも？一日も早い快復を・・・) また至仏は蛇紋岩や花の名山として知られる通り多種多様な高山植物が咲いていました。水場に入って見たシラネアオイは花に無頓着な私にも感激ものでした。途中、帰りの時間が気になり花畑の群生するベンチから引き返すことにしました。天気が悪いなりに尾瀬ヶ原の眺望を楽しめたからよしとしましょう。下山してから今夜の宿泊地に向け車を走らせている途中、SLのO氏から提案がありました。今回は東沢林道が土砂崩れのため通行止めとなり登山口を川野野営場からのルートに変更したが翌日の歩程時間や雨模様の天気から武尊キャンプ場に泊まることができればと電話したところ、なんと予約なしにも係らずこれがOK。大いに時間を短縮することができました。後で振り返るとこの機転が無ければ今次の山行は泥濘の中、相当、タフなものになっていたのではと思われます。ロッジで19:00を過ぎて始まった食事は山とは思えないほど充実したもので美味しくいただきました。女性陣の材料調達、炊事にひたすら感謝です！

翌日は5時起床、天気も何とか持ちそう、出発まで時間があるので20分ほど周囲を散策、下界の猛暑から解放され空気がひんやりとして実に気持ちがいい。朝食を胃に詰め込み用意万端、出発。時間帯か登山ルートか前日と違い人との行き会いが無い。ぶな、白樺林を見ながら歩くも見晴らしになかなか出ず、山人気であるのかなあなどと思う。泥濘の連続で少々面食らうがやっと岩場に出て鎖、ロープを使いよじ登る。眺望が無く泥の跳ね返りばかりだと単調だが岩場もアクセントがあって面白い。また沖武尊の主峰に着く前にヤマトタケル像がありました。前を歩くメンバーがO越さんとそっくりと・・・山の守り神に手を合わせておりました。頂上に着くと雨が降り出したので全体写真に納り急ぎ昼食を済ませ下山を開始しました。帰りは時間を気にしながら黙々と下りましたがさすが岩場は時間を掛け各自のペースで慎重に降りました。また下りは泥濘に足を取られないように足元に注意がいきます。ヒヤリハットが生きず大ベテランのO氏が二度もおでこをぶつけてしまいました。それでも全員、無事キャンプ場に帰還しました。この山は歩程が当初の予定よりはるかに長く掛り、泥濘がひどいとはいえ意外に思われました。帰りは温泉に浸かり、十割そばで空腹を満たした後、一路、松戸を目指しました。

ま 最後になりますがアクシデントで片目が塞がっているのに先頭を引っ張っていただいたCL、帰り高速の運転で23:30前、到着に意を払っていただきましたSL、有難うございました。そしてメンバーの皆さまお疲れ様でした。少々遠い、春日部住いですが何かとよろしくお願ひします。



今・松戸山の会は元気だ !!

その「秘密・源」は何だろう！

最近、チョット気になっていた。いくつかを紹介したい。

- ・ 会員の望む山行を、中心にした会運営を実施している。
- ・ 会・会員が、同じ方を向いている。リーダーシップがとれ、新旧の役員のバランスが絶妙である。
- ・ 組織強化、会員拡大に対する、会員の意識が高い。
ホームページの活用、新入会員への配慮などきめ細かい世話活動が組織的に行われている。

これらは、ほんの一部だ。長い間、会運営に携わって来たベテラン会員から、若い層の会員にバトンタッチがスムーズに行われている。



(編集者)

2013 救急法机上講習会の報告

教育遭難対策委員会

さる7月21日、船橋中央公民館にて12団体計37名の参加を得て、掲題の講習会を実施しました。

一般的な登山中に起こり得る事故で、現地現場での必要な応急措置を各会員に身に付けて貰う為、参加者が実際に実技を繰り返し行う事を目的とし、実施しました。

参加会：ちば山の会 船橋勤労者山の会 岳樺クラブ ちばこまくさハイキングクラブ まつど山翠会 松戸山の会 ふわくハイキングサークル 市川山の会 まつど遠足クラブ かがりび山の会 シリウス☆やまの会 らんたん山の会

内容：テーピング（捻挫／骨折での応急処置 講師：かがりび山の会 平井さん）
三角巾（折り畳み使用法 講師：ちば山の会 神山さん）
搬送法（ザックとストック等を利用 講師：ちば山の会 田中さん）

何れも、講師デモの後にグループ毎に参加者が各自の装備を使用して、実技を行う事により、大いに効果を上げたと判断されます。

懸案としては、当日の参加者（会）が少なからず有り、参加者把握での不備と配布資料不足となった為、募集案内での主旨徹底（資料配布上、事前申し込み）が必要。また、実施期日は梅雨頃（6月）が適切と思われます。



三角巾のたたみ方（これでいいはず?）



足首の捻挫のテーピング

安全に楽しく山を歩くためのテキスト

「ハイキングA・B・C」のご案内

「ハイキングA・B・C」を最初に刊行したのは、1991年3月でした。当時は中高年層が大挙してハイキングや登山に押し寄せ、会員がどんどん増えていた時代でした。安全で楽しいハイキング・登山を普及するために、教育のためのテキストが強く求められていました。以来、1995年9月の改訂版発行、2003年10月の第3発行と改訂を重ねてきましたが、全国の労山会員の方々に広くご活用いただき、今日に至っても注文が引きも切らないテキストとなっています。

(「ハイキングA・B・C」の抜本改定にあたって、より)



改訂のポイント

- ・ 従来のテキストは中高年層を対象としていた。今回は山ボーイ・山ガールを意識した内容にしました。だからと言って、中高年ハイカーをないがしろにはしていません。今まで以上に、中高年にやさしい内容です。
- ・ 従来の「日帰りハイキング」から、「小屋泊まり縦走」を想定した変更です。

利用のポイント

- ・ 小グループ・会講習などで、テキストを手元に、繰り返し実施する。
- ・ 山筋ゴーゴーテキストと合わせて使用すると、体力・技術がアップします。

情報

松戸山の会は、40部購入しました。(ハイキング委員長推薦?です)

問い合わせ・質問は：danphiro@zpost.plala.or.jp 千葉県連 会長
：090-8316-2020 広木 国昭

女性委員会活動から生まれた

「山筋ゴーゴータイソ」改訂版が出ました。

生涯登山をめざして

この山筋ゴーゴータイソを、会やクラブの例会や山行で励行されることをお勧めします。
この山筋ゴーゴータイソをきっかけに「あせらず、ゆっくり、前向きに」息長く登山を楽しみましょう。
(あとがきより)



石田 良恵 監修 (一部 200円)

石田 良恵 先生プロフィール

女子美術大学名誉教授 (保健学博士)・鹿屋体育大学客員教授・

「女性とスポーツ環境」「体脂肪を確実に燃やすエクササイズ90」など著書多数
往年のスプリンターで、現在はマスターズ陸上で活躍中

「東京都連盟会員」「全国連盟女性委員」

問い合わせ・購入連絡先：千葉県連盟 広木 国昭 (danphiro@zpost.plala.or.jp)

各会で、有効に活用して下さい。

こまくさハイキングクラブ 20013 年度クリーンハイク実施報告

自然保護委員会・外山健太
(こまくさハイキングクラブ)

日 程・20013 年 6 月 2 日 (日) 天候小雨曇り

場 所・養老溪谷 水月寺～栗又の滝

参加者・L 外山健太 (計 33 名)

Aグループ・水月寺～栗又の滝

Bグループ・栗又の滝周辺

コース・菊本邸 6 : 30 - 新検見川駅 7 : 05 - 高滝ダム 8 : 10/35 - 水月寺 9 : 05
クリーン作業 9 : 15 ~ 10 : 30 - 滝見苑 11 : 15 - 県民の森 (懇親会兼食
事) 12 : 10 ~ 14 : 30 - 千葉駅 16 : 30 - 新検見川 17 : 00 (解散)

クリーン収集実績表

単位 kg

	可燃物	不燃物	鉄くず	合計
2013 度	13.5	10.5	8.7	32.7

朝方の天気予報では午後から崩れるとのことでしたが養老溪谷に着くころ小雨、合羽を着、2 班に分かれクリーンハイクを実施しました。

昨年度同様、参加者が少なく開催が危ぶまれましたが自然保護委員の呼び掛けに賛同して頂いた新入会員、ベテラン会員を含め 33 名参加して頂きました。

昨年と大体同じ人数、ご協力有り難うございました。

毎年実施していることが浸透しているせいか年々ゴミの数量が少なくなった様です。こまくさハイキングクラブの成果と言ってもいいのではないかと思います。地元大多喜町、養老溪谷の人達がクリーンハイクの実施を見守っていることが感じ取られました。また滝見苑よりメロンキャラメルを頂きました。感謝の表れと思いました。

残念な事は天候不順のせいか観光客が少なく一般客に PR が出来ず残念でした。県民の森では佐藤和栄さんを L として女性人が恒例のトン汁・サラダなど作り、また荻野氏の家庭菜園のそら豆を美味しく頂き懇親会は大いに盛り上がりました。最後に参加者が円になり新旧会員の自己紹介、希望を話す人色々個人によって違いがありました。

毎年恒例の行事であります、来年度も実施したく大勢の参加をお願いします。

尚、来年度クリーンハイク実施にあたり大勢参加を図る為に反省するところ多々ありますが、知恵と工夫を私共に聞かせていただければ幸いです。

ゆう便り No.6

日程： 7月12日夜～15日（月）

参加者： 船山3名、ふわく10名、東葛4名、まつど遠足2名、かがりび4名、ちば山5名、一般3名 合計31名

支援場所： 金華山12名（13,14日のみ） 谷川浜19名

報告 平井（かがりび）

今回7月のボランティアは、直前に金華山神社からの要請で12名が金華山の土木作業に土日の二日間従事。残りは谷川浜も4件の現場に別れホヤの養殖作業に従事。ふわくの大田夫妻が日曜一日だけの谷川浜に飛び入り参加し、かがりびの5名は土日の作業のみで三日目の泉ヶ岳ハイキングの為に終了後、離脱。

昨年の7月と比べ、大分道路の修復整備が進み(現在進行形の場所も有るが)、車の振動が少なくなったことと、港に漁船がだいぶ増え、それぞれの湾に浮かぶブイの数が増え、時間と共に復興の成果が確実に進んでいる様子があり、何よりも嬉しい事だった。

報告者の私は谷川浜に従事しましたが、参加者の多くが何回も経験している人が多く、二日目の朝などは、現場に早く行き、それぞれの持ち主が居ないにも関わらず、自発的に自分の出来る作業を行い、初日より1時間以上早めに作業を進め、作業効率上げる、ベテランボランティア?になっていました。

又、食事を作る立場から大きな変化がありました。今回から10キロのプロパンガスボンベと2基の業務用ガスコンロが入り作業効率が大幅に短縮されるようになりました。プロパンガスボンベとガスコンロの一式をかがりびの後藤氏、3升炊きのアルミのお釜2個とアルミの大鍋と陶器の皿や器を、まつど遠足クラブの窪田さんから寄付して頂きました。御飯が一度に炊けて、かつお焦げが炭化せずに食べられる状態で出来る事は、作る側としては何よりも有り難い事です。お二人に感謝です。



漁師さんよりウニの差入れをいただきました

ハイキング報告

三連休の二日間を作業に従事して最終日をハイキングにあてる、新しい試みでしたが、結果梅雨末期？の大雨にたたられ、谷川浜から百キロ少々離れた泉ヶ岳スキー場に着き（移動中は霧雨程度だった）、テント場所を決め、テントを設営後からの雨足が断続的に酷くなりはした。大分夕食時間が遅れたので、何よりも食べて飲む事が優先され、2名は車中に、3名はテントに寝たが、12時頃から大音響（土日にイベントが行われ12時頃から打ち上げ？の音楽がスピーカーでガンガン鳴らされ）と雨で目が覚めたが、既にエアーマット以外は水没していて、ゴアのシュラフカバーから出るとびしょ濡れ状態。じーっとトイレにも行かず明るくなるまでまんじりもせず朝を迎えるも、結局泉ヶ岳の登山は中止と成りました。隣の青少年自然の家が工事中で雨宿りする場所がすべて立ち入り禁止に成っており、ご丁寧にガードマンまで巡回して、一切の雨宿り出来なかった事も大きかった。こんな事なら夕食を谷川浜で一緒に取り、翌日の昼まで作業に従事していた方が余程良かったが、水没テントの浮いたエアーマットとシュラフカバーでの一夜も、中々経験の出来ない貴重な一夜でした。が精神的な疲労は、肉体的な疲労よりも大きい。天気は磐越道に入るまで悪く涼しかったが、茨城に入ったら一気に梅雨明けの天気でした。

8,9月の災害支援

8月は谷川浜での作業自体が無いことから、福島南相馬市に入ります。作業は南相馬ボランティアセンターの指示によりますが、昨年4月より避難指示解除準備区域になった小高地区での草刈や、個人宅の片付け作業などを行う予定です。

9月は、いつもの谷川浜でのホヤ関係の作業です。

谷川浜での宿泊は漁師さんの作業小屋ですが、自分たちだけで自由に使わせてもらっています。食事は、報告にある通り持ち込んだ鍋や釜、コンロで自炊しています。同じ釜の飯を食い、交流する、これもゆうの活動の一環です。夜の交流会は楽しいですよ。ぜひ、一度参加してみてください。

- ・ 8月23日(夜)～25日(日) 夜行1泊2日 南相馬市・小高地区
- ・ 9月13日(夜)～16日(月) 夜行2泊3日 牡鹿・谷川浜

参加を希望される方は吉田まで連絡ください。

吉田哲治(tetsu195715@aol.com 090-1406-5008)

2013年7月東北支援報告（金華山）

NPO 法人ちば労山ゆう正会員 鶴田秀雄（ちば山の会）

【日程】2013年7月13日（土）～14日（日）

【場所】宮城県 金華山 黄金神社

【参加者】12名（かがりび山の会 3名 ふわくハイキングサークル 2名
ちば山の会 5名 参加者の友人 2名）

牡鹿半島谷川浜での全体ミーティング後鮎川浜に移動、シードリーム金華山汽船のチャーター船で金華山に渡る。今回のメンバーには金華山が初めての方も多く、大きく迫る緑の金華山島の姿に気分が高まる。黄金神社の社務所にて身づくろいをして作業場に向かう。黄金神社の水源の沢にあるダムの貯水槽内に堆積した土砂の除去に取り掛かる。スコップで土砂を掬う人、土嚢袋に受ける人 どちらも大変な力仕事だ。今回、NPO 法人ナディアという国際色豊かで若者の多いグループ（彼らも12名）との共同作業になり、息もぴったりダムの堰堤脇には貯水槽から放り上げられた白い土嚢袋がみるみる積み上がる。だれが名付けたか モン・ブラン。14日の午前中まですべて同じ作業であった。この作業はたしかにきついが、肉体作業の喜びをたっぷり感じさせてくれるものであった。参加者全員が快い疲労感を感じて島をあとにしたのではないのでしょうか。

私は金華山での支援は今回が3回目だが過去2回もまったく同じ作業であった。ダムのある周囲の地形を見れば、いずれまた土砂が流れ込むだろう。土砂の除去作業はこれからも続くと思われる。

それはともかく金華山の自然はすばらしい。1日目の作業終了後、金華山（標高445m）に皆で登ったが巨樹があちこちで見られた。ゆうゆうとして近寄ってくる鹿たちも愛らしい。また2日目の早朝 巳年の御縁年大祭で毎朝行われている儀式に全員で参列することができ、神殿の奥深くでお参りができた。宿泊は社務所の畳の部屋で食事は社務所の調理場をお借りして自炊、快適だった。金華山は以前来た時と比べてだいぶ復興が進んでいるようで参拝客、観光客の姿も多く見られた。お世話になった神職の日野さん、そして巫女さんと一緒に記念写真を撮ってから船に乗り谷川浜に戻ってみなと合流した。



（貯水槽からの土砂の排出）



（神社の方と一緒に記念撮影）

東北支援 バスツアー



～ 被災された漁師さんを囲んで ～

宮城県の牡鹿半島は三陸リアス式海岸の最南端に位置し、水産業の盛んな土地柄です。そこでの水産業は、3.11の大津波により全ての浜が流され、壊滅的な打撃を受けました。あの震災から3年目に入り、何もかも失った中から再び、漁師さんは明日に向かって懸命に歩み始めています。我々NPOちば労山ゆうは、その牡鹿における水産業のお手伝いを通して、地元の漁師さんの生きるバイタリティーを間近に見、牡鹿の今を是非多くの方に知ってもらいたい、見てもらいたいと考え、漁師さんとの交流会を企画しました。被災当時のお話のみならず、牡鹿の水産業の有り様、現在の復旧・復興状況についてもお話いただける予定です。そして、毎月我々ゆうが現地においてどのような支援活動をしているのか実際に見ていただき、ゆうの活動へのご理解もいただければと思います。

東北人の信仰の拠り所であるみちのくの霊場・金華山の参拝も旅程に入っています。多くの児童・先生が亡くなった大川小学校、壊滅的被害を受けた女川町や南三陸町の被災地もめぐり、被災地の今をご自身の目で確かめていただくツアーでもあります。



日程：2013年10月19日（土）～20日（日）

参加費：20,000円（往復のバス代、宿泊費、金華山往復の船代）

募集定員：30名 ＊旅程は交通の事情等により変更する場合があります。

10/19	JR 千葉駅 NTT 前6：30～牡鹿・谷川浜（ゆうの支援活動視察）～ 鮎川浜＝定期船往復＝金華山黄金神社参拝＝鮎川浜～小湊浜 民宿・ 後山荘（泊） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	* 19:30頃より後山荘において、地元の漁師さんを囲んでの交流会 （漁師さんの奥様による日本舞踊も予定しています）
10/20	被災地視察（女川町～雄勝～大川小学校～南三陸町さんさん商店街）～ 帰葉（20時頃予定） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

主催：NPO 法人ちば労山ゆう

後援：千葉県勤労者山岳連盟

申込先：佐藤（tel/fax 047-379-2195

e-mail k-sato111@m9.dion.ne.jp）

角掛（tel/fax 043-233-1845

e-mail tsunojun@my.email.ne.jp）

支援物資の ご案内

千葉労山は、東日本大震災の支援活動を震災直後から継続しています。

そして、この支援活動を継続すると同時に、この大震災を風化させないために、2012年4月に、NPO法人「ちば労山ゆう」を立ち上げました。

今、被災地は復興に向かい大きな力が動いています。しかし、被災住民にとっては決して満足の出来る内容ではありません。一般市民優先の復興を支援して行きます。

一方、ボランティア活動の現状は、高速道路無料措置の廃止など支援活動にとっては厳しい状況が続いています。「ちば労山ゆう」は、被災者に寄りそった支援活動を継続して行くために、支援金・活動費の財政活動に取り組んでいます。

支援者の皆様に、ご協力をお願いしている、被災地・気仙沼直送の「とろろこんぶ」「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」に加えて、「すき昆布」がラインアップしました。引き続き「ちば労山ゆう」の財政活動にご協力をお願いします。



とろろこんぶ 550円



おさしみわかめ 600円



さしみこんぶ 600円

◆ 新製品紹介

今月、気仙沼・唐桑半島 前田商店より「すき昆布」の紹介がありました。

三陸産の良質な昆布から、つくられた「すき昆布」が入荷しました。

「すきわかめ」は、軟らかくなるまで水につけてもどします。

- ・ 生でよし・煮てよし・・・そのまま、サラダ で、さつま揚げと煮物にして下さい。



すき昆布 600円



さつま揚げとの煮物



生姜風味のサラダ

申し込み・問い合わせ・・・千葉県勤労者連盟ホームページ・事務局への問い合わせまで
・・・千葉県連盟会長・広木まで：danphiro@zpost.plala.or.jp

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ 県連事務所リニュアルのお手伝い募集
入居時以来、手つかずの状態でしたが、手狭になってきました。資料の整理も出来ていません。収納スペース・本棚などを整備して使いやすくしたいと思います。
一人でもお友達と一緒に大歓迎です。
連絡は：広木までお願いします

NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページからも入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
- ・入会情報（6月末）

正会員数	108名
賛助会員数	121名
合計	229名
- 常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
- NPO「ゆう」支援活動のお知らせ
8月24日（土）・25日（日）
9月14日（土）～16日（月）
に実施します。
一人でも参加出来ます。
上記、問い合わせ先まで！

支援物資のご案内

- 三陸産・気仙沼直送の
 - 「おさしみわかめ」
 - 「おさしみこんぶ」
 - 「くきわかめ」
 - 「すき昆布」
- ・4兄弟になりました。
問い合わせ・注文は下記アドレスに、多少にかかわらずご連絡を下さい。
danphiro@zpost.plala.or.jp
090-8316-2020

県 連 活 動 予 定 表

8月		行事予定	9月		行事予定
1	木		1	日	
2	金		2	月	女性委員会 17時
3	土		3	火	役員会 19時
4	日		4	水	
5	月		5	木	
6	火	役員会はお休みします	6	金	
7	水		7	土	関東ブロック 役員交流会
8	木		8	日	"
9	金		9	月	
10	土		10	火	ハイキング委員会
11	日		11	水	
12	月		12	木	
13	火		13	金	
14	水		14	土	「NPO ゆう」支援活動
15	木	理事会はお休みです	15	日	"
16	金		16	月	"
17	土		17	火	
18	日		18	水	
19	月		19	木	理事会
20	火		20	金	
21	水		21	土	
22	木		22	日	
23	金		23	月	
24	土	「NPO ゆう」支援活動	24	火	
25	日	"	25	水	
26	月		26	木	
27	火	教遭委員会	27	金	
28	水		28	土	関東ブロック 役員交流集会
29	木		29	日	(かぢや旅館 金谷)
30	金	「NPO ゆう」役員会	30	月	「NPO ゆう」役員会
31	土				教遭委員会

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所には常駐者はいません)

発行責任者 : 吉田 哲治 編集責任者 : 広木 国昭

問い合わせ先 : 千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ